



五稜会病院の正面です。遠くには手稲山の残雪が見えます。6月になれば消えてるでしょう。まだまだ寒い時もある春から初夏にかけての病院の風景です。

平成28年上半年期の五稜会病院

平成28年も半分近くが過ぎました。平成28年5月25/26日には病院機能評価の更新のための受審がありました。受審に備えて、職員は1年も前から入念な準備をしてきました。今回はチーム医療重視とのことで、入院患者さんの入院からどのように各職種が関わり、連携していたかをケースを通して報告しました。当院は朝の全体ミーティングをはじめとして多職種カンファレンスや電子カルテ、院内のグループウェア、ホームページなどで情報の共有化を図っています。機能評価のサーベイヤー（審査員）からは、スタッフが生き生きしていること、病棟では各種疾患教育の内容が充実していること、病院の取り組みをホームページなどで積極的に広報、情報発信していることなど、非常に高い評価をして戴きました。

明らかになった課題に対しては、今後改善に取り組んでいき、医療の質向上を図っていきます。

医療法人社団五稜会病院理事長：中島公博

五稜会病院の理念

情熱と個々への配慮

- 1 患者さんの病前の社会背景と病状を理解し、個々を尊重する治療に努める。
- 2 医療の情報開示を行い、患者さんとの信頼関係を大切に医療を行う。
- 3 地域医療連携を密にし、精神科・心療内科の基幹病院としての役割を担う。
- 4 臨床研究を行いながら、優れた医療人の育成に努める。

学会・研究発表

当院の研究発表については病院のホームページにも掲載しておりますのでご覧下さい。私たちは最新の医療を提供出来るように、日々努力しております。平成27年度も様々な学会・研究会に参加しました。当院の開かれた医療の実践報告をしています。

ACT7® ロック研修 平成28年5月29日
「メディア版家族支援～病院から地域へ、その後は？～」

吉野賢寿美

精神科チーム医療懇話会 平成28年6月3日
「五稜会病院におけるチーム医療の実践」 鈴木大輔

第15回北海道病院学会 平成28年7月16日
「精神科病院における児童・思春期電話相談の現状」

高橋典子

「精神科に入院している自傷行為が見られる未成年患者へ関わる看護師の思い」 吉田貴史

「復職後のフォローアップとして導入した職場定着支援プログラムの効果～就労継続率の変化からの考察～」

高谷広美

論文・小論

(1) 地域の変遷とケアの機能分化
ケア実践研究 2015 土屋由美子

(2) 精神保健福祉法改訂後の現状について
Depression Journal 2016 中島公博

医局・心理勉強会

- ・オープンイアリングとは何か 富永福原
- ・不登校の支援について 島谷
- ・子どもの怒りに対するアプローチ 中島
- ・意思決定支援・アサーション 池田
- ・慢性疼痛の認知行動療法 中村
- ・ストレスチェック制度における医師面接 千丈
- ・統合失調症に逃げ込めきれない発達障害の男性ケース 松岡
- ・神経性やせ症の理解と支援の工夫 清水
- ・メンタル不調者に対するサインによるケア

五稜会病院での実践内容については、院外での学会・研究会で発表しています。その際には、患者さんの個人情報保護の対応規定に従っています。病院理念の「臨床研究を行いながら、優れた医療人の育成に努める」を実践するため、皆さまのご理解とご協力をお願いします。

患者さんの権利綱領

五稜会病院の職員は、患者さんの次の権利を順守して日々の医療を行います。

- 1 安全で適正な医療を公平・平等に受ける権利
- 2 個人の生き方、信条、尊厳などが尊重される権利
- 3 病状、検査結果、治療方法・結果などについて、納得のいく説明を受ける権利
- 4 十分な説明や情報提供のもとで、どのような医療を受けるかを選択する権利
- 5 如何なる不利益を受けることなく、検査・治療などを拒否する権利
- 6 希望によりセカンドオピニオン（他の医師の意見を聴くこと）を受ける権利
- 7 如何なる場合も、個人情報やプライバシーが守られる権利

医療のトピックス

診療報酬改定（平成28年4月）

平成28年4月に診療報酬が改訂されました。精神科領域では、「向精神薬の適切な処方への推進」がありました。特に関係あるものとして、安定剤、睡眠薬、抗うつ薬、抗精神病薬の多剤併用が戒められています。当院では多剤併用をしない方針ですが、病状によっては、どうしても薬剤の種類や量が増えてしまうこともあります。多剤併用は、医師の方針だけでも改善しません。症状改善に対して、薬にばかり頼らないようにすることも必要です。患者さんとともに、必要度の低い薬剤を使用しないよう心がけていきたいと思えます。

最近の精神科医療政策のご紹介

平成27年度厚生労働科学研究補助金 （障害者総合福祉推進事業）

「入院に係る精神障害者の意思決定及び意思の表明に関するモデル事業」

この事業には当院理事長の中島公博が日本精神科病院協会の役員として検討委員会に参加し、中心的役割を果たしましたので、紹介を兼ねて報告します。

精神障害者の意思決定の助言・支援を行うための具体的な方策の検討は、これまでも厚生労働省の障害者総合福祉推進事業で行われています。本事業では、障害者総合支援法における意思決定支援の検討状況等を踏まえ、アドボケーター機能について検討することが重要であることから、全国の3病院でのモデル事業ならびにモデル研修会を実施したものです。アドボケーターとしては、専門相談員とピアサポーターの2人ペアで入院患者さんを対象に週1回、計8回程度の支援を行っています。

本事業では、改正精神保健福祉法の3年後見直しにおいて改正法に規定すべき意思決定支援内容の同定を念頭に、アドボケーターの定義、必要性、資質・研修、導入、活動の実際などが記載された「入院に係る精神障害者の意思決定及び意思の表明に関するアドボケーターガイドライン」が取りまとめられています。

今後、アドボケーターが入院患者さんにとって有用なものになっていくと予想されますが、精神科病院に入院している患者さんにとって、本来は病院スタッフが最も身近に関わっているはずで、スタッフが、患者さんの訴えに耳を傾け、入院生活に疑義や不満が生じないようにするのが最善であって、病院スタッフの患者さんに対する関わりを補完するための、アドボケーターではありません。

当院は患者さん本位の医療を提供しようと

考えております。

お気づきの点をご相談下さい。

治験のご協力をお願い

現在、当院では「うつ病」、「統合失調症」に対する薬剤の臨床治験を行っています。創薬（薬を創り出す）は国家戦略の一部です。臨床治験を行わないと、良い薬を世の中に出すことは出来ません。参加される方には負担軽減としての費用を差し上げています。今後、AD/HDの治験も予定しています。詳しく知りたい方は主治医にご相談下さい。

難治性うつ病

色々な抗うつ剤を使用してもなかなかうつ状態が改善しないこともあります。当院では一般的な抗うつ剤でも効果不十分なうつ病の患者さんへの治験を実施中です。

統合失調症

典型的な症状は幻聴と妄想です。最近では主治医から病名の告知もなされています。かつてのような不治の病ではありません。適切な薬物療法が必須です。

五稜会病院 概要

標榜科名：精神科・心療内科・内科・消化器科

病床数	193床		
急性期病棟	48床		
ストレスケア・思春期病棟	48床		
療養病棟 A	49床		
療養病棟 B	48床		
従業員数	約 200 名		
医師数	常勤 7名	非常勤	8名
看護師	84名		
薬剤師	2.5名		
臨床検査技師	2名	非常勤	2名
臨床心理士	8名	非常勤	4名
作業療法士	9名	音楽療法士	1名
精神保健福祉士	10名		

五稜会病院沿革

開設	昭和47年
医療法人開設	平成2年

編集後記

平成28年5月、6月とこれからとても良い季節になります。でもちょっと寒い時もあります。お風邪を召さぬように。懸案であった機能評価受審が終わり、ホっとしているところです。

発行：平成28年5月26日

〒002-8029

札幌市北区篠路9条6丁目2-3



発行責任者：広報委員 羽生恵美・清水優子

電話：011-771-5660

http://www.goryokai.com

mail：GMC@goryokai.com

デイケア祭無事終了しました

4月22日(金)に“デイケアを知ってもらおう!”というテーマのもとデイケア祭が行われました。

デイケアメンバーが主体となり企画運営を行ったもので、飲食販売係・作品展示係・作品販売係・スライドショー係・実演体験係・多目的ホール係に分かれ、数ヶ月にわたり準備を重ねてきました。

飲食販売では、たこ焼き・ワッフル・ナゲット・キャラメルポテトなどが大人気で、10人以上が並ぶ長蛇の列で大賑わいでした！美味しそうに家族や友達と食べている姿が印象的でした。



作品展示では廊下や壁に絵画や書道を展示しました。自由に自身を表現したさまざまな作品を、どこにどのように展示するか、作品展示係が一つ一つ丁寧に時間をかけ準備をしてきました。

アトリエでは、数多くの手芸作品を販売していました。レジン小物やフラワーソープなどの作品を大勢のメンバーで作り上げ、売り上げに繋がったことは、メンバーの達成感に繋がったと思います。



2階カルチャールームでは、バンド演奏を行いました。立ち見の人がでる程の大盛況でした！時間をかけて準備した演奏を大勢の方に聴いてもらうことが出来、ほんとうに良かったと思います。

さくらほりきりや塗り絵の実演体験コーナーでは、メンバーが主体となり、来てくださった方々に丁寧に教えている姿が印象的でした。



完成したばかりの多目的ホールでは、多くのスポーツ体験を行いました。デイケアでは、スポーツプログラムが大変人気です！その中のサッカー、バスケットボール、卓球などをゲーム形式で楽しめるように、係のメンバーが意見を出し合い企画しました。

スライドショーでは、デイケア行事の写真や複数のスタッフにインタビューし、時間をかけ作り上げました。

当日の売上金(純利益)は、メンバー同士で話し合った結果、熊本の震災義援金とすることになりました。来てくださった皆さま、ありがとうございました。(デイケア:高橋)



病院機能評価受審にあたって

～病院機能評価とは？～

病院が組織的に医療を提供するための基本的な活動(機能)が、適切に実施されているかどうかを評価する仕組みで、任意で審査を希望します。つまり、「より良い病院作り」を目指す取り組みです。一定の水準を満たしていると認められると「認定病院」となります。認定期間は5年で、更新するためには再受審する必要があります。



5月25日(水)、26日(木)の1日半の日程で、公益法人日本医療機能評価機構によって行われた「病院機能評価」の受審を終了しました。10年前に初認定を受けてから、今回で3度目の受審となります。

平成26年から機能種別評価項目(3rdG:Ver.1.0)がスタートし、病院の機能に合わせた評価項目で、ケアプロセスをより重視した実践的視点からの評価となりました。平成27年2月病院機能評価プロジェクトを発足し、約1年半に渡ってプロジェクトチームを中心に、病院スタッフ一同準備を行い、受審に臨みました。

受審を終えて・・・

終了後、3人のサーベイヤー(診療部門・看護部門・事務部門)から講評がありました。「とても頑張っている病院」とのコメントをいただき、当院の良さについても気付いてもらうことが出来ました。

審査に向けての準備、そして実際の審査を受けるのはとてもストレスフルですが、改めて他者から様々な視点で見ってもらうことは非常に大切なことと感じているところです。更なる改善に向かって、また明日から頑張りたいと思います。(看護部長:吉野)



栄養課の役割について

栄養課の役割について糸谷栄養士に伺いました。

栄養課では、安全で美味しい食事の提供と栄養管理を行なっています。病院給食の枠にとらわれず、家庭に近いお食事や外食での人気メニューの提供を心がけています。

また入院および外来患者さんに栄養相談を行なっています。

糖尿病や脂質異常症など生活習慣病予防の為、バランスの摂れた正しい食生活を送れるようサポートしています。

最近では摂食障害の方が多くなってきています。食事の大切さや必要なカロリーについて一人一人に寄り添った相談を行なっています。

(栄養課:糸谷)

